農家繋養優良牛採卵技術確立試験

根本聡実・渡辺晃行・戸塚　豊※1・韮澤圭二郎

要　約

農家に繋養されている黒毛和種及びホルスタイン種の雌牛を対象とし，卵胞刺激ホルモン(FSH)量の減量与法による過剰排卵処理を行い採卵を行った。

黒毛和種では20頭行い１頭あたりの採胚数は12個，正常胚は5.9個，ホルスタイン種では22頭行い１頭あたりの採胚数は6.8個，正常胚数は4.3個であった。

キーワード：過剰排卵処理，子宮灌流法

目　的

農家に繋養されている優良雌牛（黒毛和種，ホルスタイン種）を供胚牛として活用するため，効率的な過剰排卵処理方法及び採胚後の繁殖成績におよぼす影響について検討する。

材料及び方法

１．供試牛

農家繋養の黒毛和種雌牛20頭及びホルスタイン種雌牛22頭

２．調査期間

平成13年４月１日～平成14年３月31日

３．過剰排卵処理法

発情確認後９～13日で開花期黄体が確認された牛について，卵胞刺激ホルモン製剤（製剤中に含まれる黄体形成ホルモンを0.8%まで除去精製したもの：FSHR）を用い，黒毛和種では24AUの３日間減量投与法，ホルスタイン種では36AUの4日間減量投与法を実施。発情誘起はプロスタグランジン$F_{2\alpha}$（$PGF_{2\alpha}$）を使用し，過剰排卵処理開始３日目の朝・夕に黒毛和種ではそれぞれ20mg・15mg，ホルスタイン種ではそれぞれ35mg・15mgを投与。

４．採胚

人工授精後7日目にバルーンカテーテルを用いた子宮灌流法で受精胚を回収。

結　果

１．黒毛和種採胚成績

延べ20頭の採胚を実施した。採胚総個数は240個で１頭当りの採胚数は12.0個，正常胚数は117個で１頭当りの正常胚数は5.9個であった（表１）。

２．ホルスタイン種採胚成績

延べ22頭の採胚を実施した。採胚総個数は149個で１頭当りの採胚数は6.8個，正常胚数は94個で１頭当りの正常胚数は4.3個であった（表２）。

※１現　茨城県県北家畜保健衛生所

表１ 黒毛和種採胚実績

採胚頭数（頭）	採胚数（個）		正常胚数（個）	
	実績	平均	実績	平均
20	240	12.0	117	5.9

表２ ホルスタイン種採胚実績

採胚頭数（頭）	採胚数（個）		正常胚数（個）	
	実績	平均	実績	平均
22	149	6.8	94	4.3